

# 5年ぶり、最後の「学区民大運動会」 仙台市若林区

we support ↓

**RQ**  
災害教育  
センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろうー大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』  
かめばいん  
しんぶん

「すけさきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

NOVEMBER  
**11**  
2015

(河北新報オンライン、朝日新聞デジタルほか)震災前、

仙台市若林区荒浜で毎年9月に住民総出で行われてきた「学区民大運動会」が6日、同区の七郷小の校庭を借りて5年ぶりに行われ、多くの住民が再会を喜び、ともに汗を流した。町は津波で跡形もなくなり、運動会の会場だった荒浜小は来春、七郷小に統合される。散り散りになった人々が集まる、初めて最後の機会となった。

大運動会は1970年代に、青年団が中心となって始め、やがて荒浜小と合同する形になった。大きな祭りのなかった荒浜では年間の最大行事。東・西・南・北・石場・新町の6地区対抗で、それぞれの色のユニホームをそろえ、当日朝は町内会ごとに太鼓を打ち鳴らして入場した。

クライマックスは地区対抗リレー。1週間前から浜で毎晩練習し、策を練った。子どもらの応援合戦も熱が入った。祝勝会には、他地区が祝儀を持ってゆくのにならわしかった。

しかし4年半前、震災の津波で綱引きの綱、玉入れの玉、持ち回りの優勝旗など、すべてが流された。地域住民約120人が犠牲となり、多くの人が家を失った。

今年1月、荒浜小の櫻場直志校長が「児童16人の最後の思い出に運動会を開催したい」と体育振興会に呼び掛けた。協議を重ね、支援団体から援

助を受け5年ぶりの復活にこぎつけた。

宮城野区に家を再建した二瓶そのさん(68)は震災時、車に偶然積んでいたため手元に残った青色のユニホームを着て参加。「懐かしい顔ぶれに会えてうれしい」と顔をほころばせた。

練習ができないため、地区対抗リレーはなくなつたが、サイダー飲み競走、みんなで踊る「荒浜音頭」などおなじみの種目が並んだ。体育振興会の大久保秀男会長(64)「若林区は「住民はばらばらになるが、荒浜の強い絆を持ち続けてほしい」と話した。



名物競技「親子リレー」(河北新報オンライン)

当日は雨が心配されましたが、予定された種目をすべて実施することができました。カナダ・バンクーバー絆プロジェクトさんのご支援、沖縄第一牧志公設市場の皆さんからはTシャツをいただきました。当日も会場に声援にお出でくださいました/速くからありがとうございます!

また、日頃から荒浜小の子供たちを支援して下さる相模原市のMさんも応援に駆け付け、子供たちに大きな声援を送って下さいました。

皆さま、ありがとうございました。

運動会は最後ですが、また、こうして皆で集まれることを祈っています!(荒浜小ブログより:2015.9.9)

「学区民運動会があるから競技に参加してほしい」とのお誘いを受け、家内ともども夜遅くまで伊勢公園で競技の練習をしたことが、昨日のことに思い出されました。

競技を見ながら「みんな、どこで練習したのかな」とか、「連絡は町内会が無いのにどのようにしてやったのかな」とか、「運動会が終わったあとはどこで打ち上げをやるのかな」などと、細かいことばかり考えていました。

そして、これが本当に最後の、荒浜の人たちが協力しあって行う行事なんだな、と思うと胸が熱くなりました。(医療法人安心会ブログより:2015.9.13)

